

メッセージアウトライン

コリント人への手紙 第一10:1~13 「気をつけなさい」

[1-4]「そこで、兄弟たち。私はあなたがたにぜひ次のことを知ってもらいたいです。私たちの父祖たちはみな、雲の下におり、みな海を通過して行きました。そしてみな、雲と海とで、モーセにつくバプテスマを受け、みな同じ御霊の食べ物を食べ、みな同じ御霊の飲み物を飲みました。というのは、彼らについて来た御霊の岩から飲んだからです。その岩とはキリストです」

パウロはイスラエル民族のエジプト脱出の歴史的出来事をコリント人に対する教訓として語る。→出エジプト記参照 指導者モーセに導かれて、イスラエルの民は紅海の水が分かれた海の底を通過して渡り、約束の地を目ざして進んだ。昼は雲の柱、夜は火の柱が旅の間、彼らを導いた(出13:21~22)。この経験が彼らを指導者モーセと一心同体とした。パウロはこのことを「みな雲と海とでモーセにつくバプテスマを受け」たと表現する。

「御霊の食べ物」とは天からのパンであるマナ(出16:4~5)、御霊の飲み物とはモーセが主なる神の命令により手に持っていた杖で岩を打つと岩から水が出、民がそれを飲んだこと(出17:1~7,他) 荒野を旅するイスラエルの民には、常に御霊の岩がついて来て、彼らの必要を奇跡によって満たされたことを「その岩とはキリストです」と教える。人々にいのちを与える水を流れ出させる岩。たしかにそれはキリストにふさわしい表現と言える。→ヨハネ4:14、7:37~38

[5-6]「にもかかわらず、彼らの大部分は神のみこころにかなわず、荒野で滅ぼされました。これらのことが起こったのは、私たちへの戒めのためです。それは、彼らがむさぼったように私たちが悪をむさぼることのないためです」

パウロがこのように昔のイスラエルの歴史を引用して語って来たのは自信過剰に陥りがちなコリント人、また私たちが悪をむさぼることのないように戒めのためであった。

[7-11]「あなたがたは、彼らの中のある人たちにならって、偶像崇拜者となつてはいけません。聖書には、『民がすわっては飲み食いし、立っては踊った』と書いてあります。また、私たちは、彼らの中のある人たちが姦淫をしたのにならって姦淫をすることはないようにしましょう。彼らは姦淫のゆえに一日に二万三千人死にました。私たちは、さらに、彼らの中のある人たちが主を試みたのにならって主を試みることはないようにしましょう。彼らは蛇に滅ぼされました。また彼らの中のある人たちがつぶやいたのにならってつぶやいてはいけません。彼らは滅ぼす者に滅ぼされました。これらのことが彼らに起こったのは、戒めのためであり、それが書かれたのは、世の終わりに臨んでいる私たちへの教訓とするためです」

ここにはイスラエルの民がどのような悪を行っていたかが記されている。「偶像礼拝」→出32:1~6「姦淫」→民25:1~3、「主を試みた」→民21:4~6、「つぶやき」→民16:41他 こうしてパウロは昔のイスラエルの罪を具体的にあげてコリント人たちがかつてのイスラエルのように、豊かな恵みをいただいているが滅びてしまわないように警告する。

[12]「ですから、立っているとと思う者は、倒れないように気をつけなさい」

「立っているといる者」とは自らの知識を誇り自信過剰に陥っているコリント人たち。自分は

大丈夫だと思う人ほどあぶない。→ローマ11:19~22

[13]「あなたがたの会った試練はみな人の知らないものではありません。神は真実な方ですから、あなたがたを、耐えられないほどの試練に合わせることはなさいません。むしろ、耐えられるように、試練とともに脱出の道も備えてくださいます」

パウロは終わりにあたって、コリント人たちを励ますことを忘れない。コリントの教会には様々な問題が山積し、その環境は最悪であるかもしれない。しかし、試練があるならば神は必ず脱出の道も備えてくださる。神は私たちが滅ぼそうとは望んでおられない。かえって、試練によって罪に打ち勝ち、成長すること、神の栄光を現す者になることを望んでおられる。信仰者はどのような時にもまっすぐに主イエス・キリストを見上げて進んでいき、勝利と感謝の生活を送ることができるのである。